

- 1 食道疾患について正しいのはどれか。
- a Rokitansky憩室は圧出性である。
 - b Barrett 食道癌は扁平上皮癌である。
 - c 食道平滑筋腫は嚥下障害の原因となる。
 - d 食道裂孔ヘルニアには噴門形成術が有効である。
 - e 逆流性食道炎の診断にはSydney分類が用いられる。

- 2 急性心筋梗塞の合併症でないのはどれか。

- a 心室細動
- b 心室中隔穿孔
- c うっ血性心不全
- d 大動脈弁狭窄症
- e 僧帽弁閉鎖不全症

- 3 Wallenberg症候群に認められる症候を2つ選べ。

- a 感覚解離
- b Grasp反射
- c Horner徴候
- d Babinski反射
- e Romberg徴候

- 4 赤血球疾患に関して正しいのはどれか。

- a 鉄芽球性貧血では血清鉄は低下する。
- b 菜食主義では葉酸欠乏性貧血をきたしやすい。
- c サラセミアでは赤血球浸透圧抵抗試験の減弱を認める。
- d 発作性夜間血色素尿症では溶血機序に補体関与する。
- e トランスフェリン飽和度の正常化は鉄欠乏性貧血に対する鉄剤投与終了の指標となる。

- 5 緊張性気胸について誤っているのはどれか。

- a 血圧低下
- b 奇異呼吸
- c チアノーゼ
- d 頸静脈怒張
- e 声音振盪の減弱

- 6 原発性アルドステロン症で認められるのはどれか。2つ選べ。

- a 低K血症
- b 高Mg血症
- c 白血球増多
- d 血漿レニン活性低値
- e 血中コルチゾール日内変動の消失

- 7 写真に示す疾患の原因として誤っているのはどれか。

- a 腎移植後
- b 多発性骨髄腫
- c 急性糸球体腎炎
- d 非ステロイド抗炎症薬の内服
- e 反復する腎盂腎炎

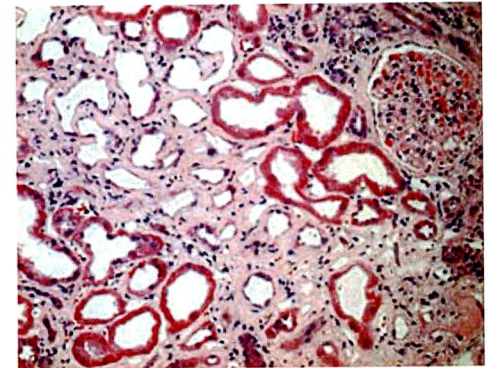


写真 (PAS染色 100×)

- 8 リウマチ性多発筋痛症に合併するのはどれか。

- a 嚥下障害
- b 間質性肺炎
- c 肺高血圧症
- d 側頭動脈炎
- e 急速進行性糸球体腎炎

- 9 乳幼児腸重積症について正しいのはどれか。

- a 腹痛は間欠的である。
- b 血便は暗赤色である。
- c Meckel憩室が原因であることが多い。
- d 非観血的整復術の際の圧は200 cmH₂Oである。
- e 観血的整復術の基本は嵌入している腸管を引き抜くことである。

10 新生児期に根治術を行うべき疾患はどれか。

- a 左心低形成症候群
- b ファロー四徴症
- c 総肺静脈還流異常症
- d 三尖弁閉鎖症
- e 心房中隔欠損症

11 帝王切開後1日の褥婦が左下肢の腓腹部疼痛と下肢浮腫とを訴えている。

まず行うのはどれか。

- a 心電図
- b 血球検査
- c 動脈血ガス分析
- d 胸部エックス線撮影
- e 下肢静脈超音波検査

12 悪性黒色腫について誤っているのはどれか。

- a 全身に生じる可能性がある。
- b 主に血行性転移を生じる。
- c 5年生存率は90%以上である。
- d 色素に乏しくとも本疾患であることは否定できない。
- e 不均一な黒色調や、黒色のしみ出しは特徴的な所見である。

13 術後リハビリテーションに使用するCPM（Continuous Passive Motion）写真1と2を示す。

CPMを使用できない手術はどれか。

- a 人工膝関節全置換術
- b 鏡視下半月板縫合術
- c 前十字靭帯再建術
- d 高位脛骨骨切り術
- e 膝関節固定術



写真1



写真2

14 騒音性難聴で障害されやすい周波数域はどれか。

- a 250 Hz
- b 500 Hz
- c 1,000 Hz
- d 4,000 Hz
- e 8,000 Hz

15 振戦せん妄の症状として正しいのはどれか。

- a 作話
- b 意識障害
- c 運動失調
- d 眼球運動障害
- e 強直間代性けいれん

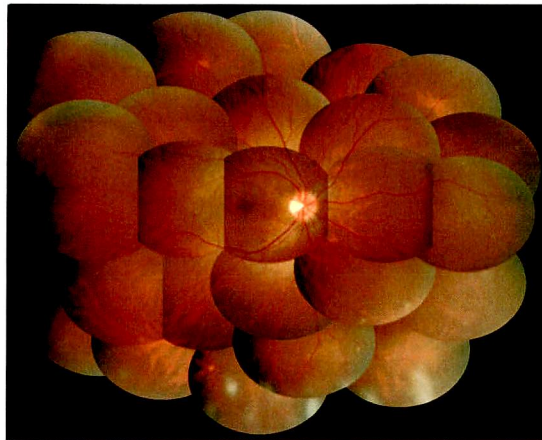
16 アトピー性皮膚炎に特徴的なのはどれか。3つ選べ。

- a 痒 痒
- b 虹彩炎
- c 出血傾向
- d 対称性皮疹
- e 血清IgE増加

17 眼底写真を示す。

この症例でみられる検査所見はどれか。2つ選べ。

- a 補体価低下
- b 抗核抗体陽性
- c γ -グロブリン増加
- d 可溶性免疫複合体増加
- e ツベルクリン反応陽性



眼底写真

18 出血時間が延長するのはどれか。2つ選べ。

- a 血友病A
- b Glanzmann病
- c 第X因子欠乏症
- d 特発性血小板減少性紫斑病
- e クマリン（ワルファリン）服用

19 肺炎球菌性肺炎について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a グラム陰性双球菌である。
- b β ラクタム系抗菌薬を投与する。
- c 市中肺炎の起炎菌として最も多い。
- d 末梢白血球数は上昇しないことが多い。
- e 重症度判定に意識レベルを考慮する必要はない。

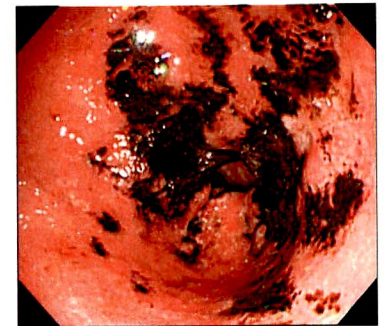
20 更年期障害に対して行うホルモン補充療法につき正しいのはどれか。

- a 骨塩量を減少させる。
- b 萎縮性膀胱は改善しない。
- c 閉経するのを待って開始する。
- d 乳がん検診を受ける必要はない。
- e 子宮全摘出術後であれば黄体ホルモンを投与する必要はない。

21 73歳の男性。数日前から上腹部痛を自覚していたが、今朝タール便の排出を認めたため来院した。1か月前から腰痛があり非ステロイド性抗炎症薬を服用している。現在、併存疾患はない。胃内視鏡写真を示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- a 再発を繰り返す。
- b 精神的ストレスが原因になる。
- c UI-IVの深い病変が特徴である。
- d 非ステロイド性抗炎症薬を継続する。
- e 熱傷に合併した場合Cushing ulcerと呼ばれる。

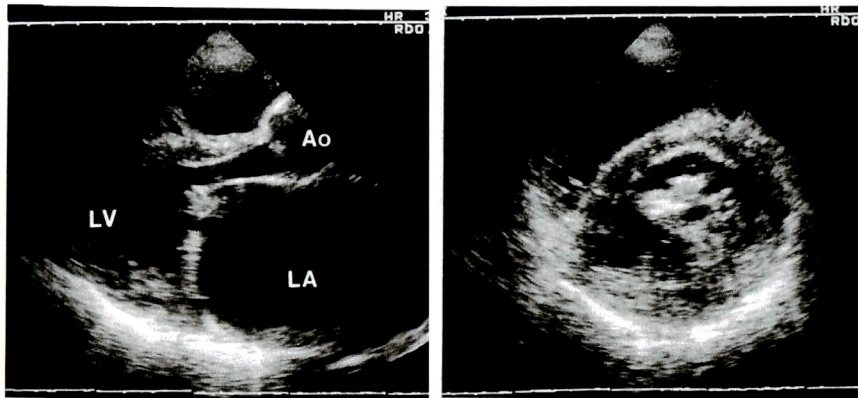


胃内視鏡写真

22 62歳の女性。労作時の息切れを主訴に来院した。20歳ころに微熱が続き、抗菌薬治療を受けたことがある。心尖部領域に雑音を聴取する。心エコー図を示す。

心音聴診で聴取されるのはどれか。2つ選べ。

- a opening snap
- b 収縮中期クリック
- c 収縮期駆出性雑音
- d 拡張早期高調性雑音
- e 拡張中期低調性雑音



心エコー図

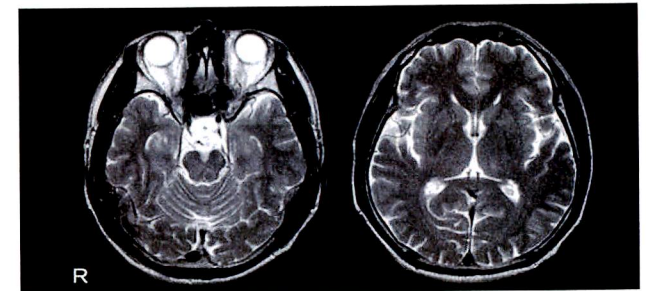
23 63歳の男性。3年前から動作が緩慢となり、人よりも歩くのが遅くなった。2年前から右上肢のだるさ、動かしにくさが出現し、書字や手指の細かい操作が困難となった。最近歩行時に右下肢を引きずるようになった。日常生活には大きな支障はないが、心配になり受診した。

意識は清明。長谷川式簡易認知症スケール 30 点、やや小声で、脳神経には異常なし。表情はやや乏しく、右優位に四肢筋固縮を認めたが、不随意運動はない。深部腱反射、感覚系、協調運動は異常なく、歩行は、軽度前傾で、小刻みである。

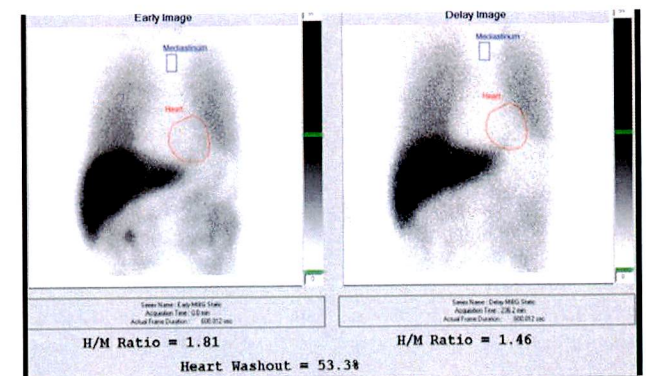
頭部MRIとMIBG心筋シンチグラムを示す。

第1選択薬はどれか。

- a 抗コリン薬
- b ハロペリドール
- c 末梢性COMT阻害薬
- d ドパミン受容体刺激薬
- e アセチルコリンエステラーゼ阻害薬



頭部MRI



MIBG心筋シンチグラム

24 68歳の女性。健康診断で貧血および白血球増加を指摘され、紹介受診した。

現症：身長 155 cm、体重 54 kg。脈拍 98/分、整。血圧 128/78 mmHg。心雑音なく、呼吸音も異常なし。肝、脾は触知せず。

検査所見：血液所見：白血球 30,200、分葉核好中球 12%、好酸球 1%、好塩基球 0%、リンパ球 84%、単球 3%、赤血球 240 万、Hb 9.4 g/dl、Ht 22%、網赤血球 5.6%、血小板 10.8 万。生化学所見：総蛋白 7.5 g/dl、アルブミン 3.7 g/dl、総ビリルビン 3.5 mg/dl、AST 56 IU/l、ALT 24 IU/l、LDH 472 IU/l（正常値 140~220）、アルカリホスファターゼ 235 IU/l（正常値 73~248）、BUN 12.6 mg/dl、クレアチニン 0.6 mg/dl。フェリチン 156 ng/ml（正常値 20~120）。

直接クームス試験 陽性。NAP スコア 168（正常値 200~300）。Major *BCR-ABL* 遺伝子（PCR 法）陰性。表面マーカー検査：CD5+、CD10（-）、CD20+、CD23+。

可能性の高い診断名はどれか。

- a 急性骨髄性白血病
- b 急性リンパ性白血病
- c 慢性リンパ性白血病
- d 慢性骨髄単球性白血病
- e 慢性骨髄性白血病のリンパ性急性転化

25 26歳の女性。同居の母親が空洞を伴う喀痰塗抹検査陽性の肺結核で現在入院加療中である。発熱、寝汗、呼吸器の症状はなく、胸部エックス線写真でも異常は認められない。母親の結核菌の薬剤感受性試験ではすべての薬剤に感受性があった。本人の2週間前行ったツベルクリン反応が強陽性となったため、結核菌特異的全血インターフェロン γ 遊離測定法も行い、これも陽性であった。

正しいのはどれか。

- a 経過観察する。
- b BCGの接種を行う。
- c 胃液の結核菌検査を行う。
- d イソニアジドの内服を6か月間行う。
- e 胸部エックス線写真に異常がないので放置する。

26 74歳の男性。意識障害にて救急搬送された。

約4か月前より全身倦怠感と食欲不振を自覚していた。

2日前より下痢、嘔吐が続いており、昼ごろから呼びかけに応答しなくなった。

肺結核の既往がある。

身長 168 cm、体重 50 kg。体温 38℃。脈拍 98/分、整。血圧 80/40 mmHg。全身の皮膚に色素沈着が認められ、特に四肢の関節部に顕著である。

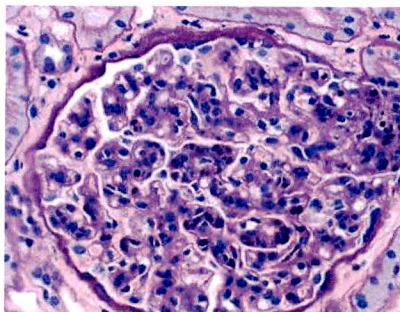
心音、呼吸音異常を認めず、腹部は平坦、軟。深部腱反射は正常。

血清生化学所見：血糖 48 mg/dl、Na 126 mEq/l、K 5.6 mEq/l、Cl 103 mEq/l、Ca 9.0 mg/dl、P 3.9 mg/dl、CRP 3.2 mg/dl。

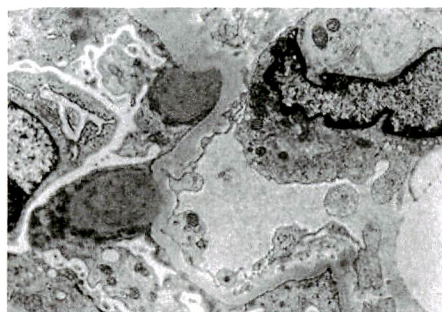
この患者で低下しているのはどれか。

- a PTH
- b ADH
- c ACTH
- d コルチゾール
- e アドレナリン

27 24歳の女性。尿量減少と浮腫を主訴に来院した。これまでの健診で異常を指摘されたことはない。10日前に発熱と咽頭痛を自覚。昨日より尿量が減少し、今朝には顔面、下肢の浮腫を認めるようになった。来院時、血圧152/92 mmHg。眼瞼、両側下腿に浮腫あり。尿所見：蛋白1+、潜血3+、沈渣：赤血球50～100/1視野、白血球4～5/1視野、顆粒円柱陽性。血液所見：赤血球410万、Hb 12.8 g/dl、Ht 35%、白血球6,500、血小板26万。血液生化学所見：総蛋白7.0 g/dl、アルブミン3.8 g/dl、クレアチニン1.3 mg/dl、総コレステロール212 mg/dl。腎生検PAS染色標本と糸球体の電子顕微鏡標本を示す。



腎生検PAS染色標本



糸球体の電子顕微鏡標本

この患者の検査所見として考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a ASO高値
- b 補体価低値
- c 抗核抗体陽性
- d MPO-ANCA陽性
- e 抗糸球体基底膜抗体陽性

28 32歳の女性。多関節痛を主訴に来院した。3年前に左手関節の腫脹および疼痛が出現した。近医を受診したが診断がはっきりしなかったため、通院を自己中断した。1年前から、右手関節、左肘関節および両手指PIP関節の腫脹と疼痛が出現し、持続している。血液所見：赤血球519万、Hb 10.8 g/dl、Ht 36%、白血球5,700、血小板35万。免疫学所見：CRP 4.8 mg/dl。抗CCP抗体陽性。両手のエックス線写真を示す。

まず投与すべき薬剤はどれか。

- a プロスタグランディン
- b 副腎皮質ステロイド
- c メトトレキサート
- d インフリキシマブ
- e アザチオプリン

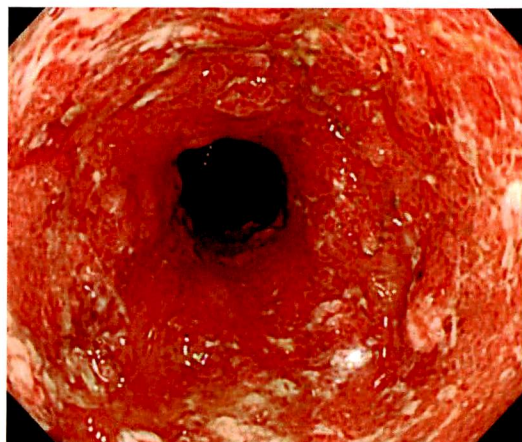


両手のエックス線写真

29 22歳の男性。血便と腹痛を主訴に来院した。2か月前から1日5回程度の下痢が続いていたが、1週前から血便と腹痛が出現した。身長172 cm、体重43 kg。体温37.8℃。脈拍120 /分、整。便細菌検査では常在菌のみ検出され、便クロストリジウム抗原は陰性であった。血液検査所見は、赤血球340万、Hb 9.0 g/dl、白血球12,000、血小板40万、総蛋白6.5 g/dl、アルブミン3.5 g/dl、尿素窒素28 mg/dl、クレアチニン0.4 mg/dl、CRP 7.5 mg/dl。内視鏡写真を示す。

注腸造影所見で予想されるものはどれか。

- a 瘻 孔
- b skip lesion
- c ハウストラ消失
- d Apple core sign
- e cobblestone appearance



内視鏡写真

30 生後0日の新生児。在胎39週で出生、出生直後で自発呼吸が微弱で筋緊張低下あり、脈拍120 /分、明らかな外表奇形は認めない。

直ちに行う処置で不適切なのはどれか。

- a 保 温
- b 皮膚刺激
- c 胸骨圧迫
- d 体位保持
- e 口腔内吸引

31 28歳の女性。0経妊0経産婦。妊娠9週の経膈超音波検査で、1絨毛膜2羊膜双胎と診断された。他に合併症はなく、順調に経過していたが、妊娠26週で、急速な腹囲の増大と腹部の筋満感を自覚し、受診した。

まず行うべき検査はどれか。

- a 腹部CT
- b 腹囲の測定
- c 75 g糖負荷試験
- d 胎児心拍数陣痛図
- e 羊水ポケットの測定

32 60歳の男性。四肢・体幹に激しい疼痛を訴えて来院した。5日ほど前に庭仕事の最中に右下腿に切傷を負った。数日は無症状であったが、昨日から受傷した右下腿に疼痛が現れ、徐々に疼痛部位が拡大した。診察上、右下腿・大腿・臀部にまで熱感を伴う発赤が見られた。下肢の複数箇所握雪感を触知した。

この患者について誤っているのはどれか。

- a 放置すれば急速に症状が進行すると予測される。
- b 患肢のエックス線画像にはガス像が認められると予測される。
- c 切傷受傷部位から分泌物があれば細菌学的検査をすべきである。
- d 全身的に重篤な状況になることは無いので、局所治療に専念する。
- e 原因菌はクロストリジウム性の場合と非クロストリジウム性の場合がある。

33 82歳の女性。右膝痛を主訴に来院した。以前から変形性膝関節症の診断にて近医で関節内ヒアルロン酸注射を繰り返し行っていた。1週ほど前より急激に疼痛が増悪し、昨日より歩行も困難となった。体温 38.7℃。右膝関節に腫脹、発赤、局所熱感および関節水症も認める。関節液は黄色混濁で細胞数の増加と糖の低下があり、関節液の細菌培養検査で黄色ブドウ球菌が検出された。単純エックス線写真と採取した関節液を示す。

すぐに行ってはいけない治療はどれか。

- a 抗菌薬投与
- b 膝関節内持続洗浄
- c 関節鏡視下滑膜切除
- d 人工膝関節全置換術
- e 膝関節内デブリードマン



単純エックス線写真



関節液

34 24歳の男性。交通外傷で搬送された。来院時右前胸部に胸郭動揺を認め、同部位に皮下気腫を認めた。また左側への気管変位を認めた。胸部エックス線単純写真では縦隔気腫、皮下気腫が著明で、右肺が完全虚脱していた。直ちに胸腔ドレナージを挿入したが、著しい空気もれが持続し、再度胸部エックス線単純写真を確認したところ、右肺は虚脱したままであった。

最も可能性が高い病態診断はどれか。

- a 食道断裂
- b 腸管破裂
- c 気管支断裂
- d 外傷性気胸
- e 横隔膜ヘルニア

35 43歳の男性。顔貌の変化を主訴に来院された。

現病歴：以前より靴のサイズが大きくなったのを自覚していた。最近友人から顔貌の変化を指摘され受診した。

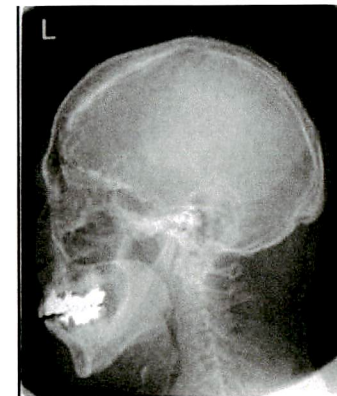
現 症：体温 36.6℃。呼吸 15 回/分。脈拍 96 回/分。血圧 162/72 mmHg。

既往症：糖尿病、高血圧

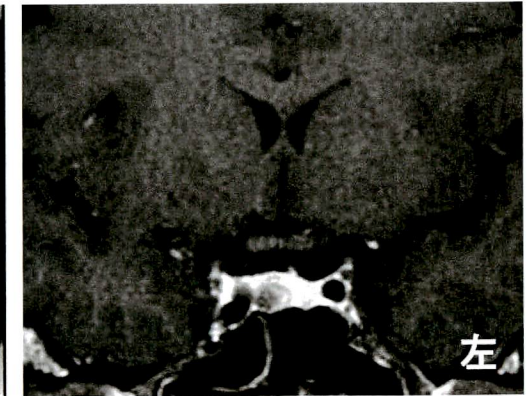
来院時の頭部エックス線写真、造影MRIを示す。

この疾患に特徴的なのはどれか。

- a にきび
- b 咬合不全
- c 多 毛
- d 骨粗鬆症
- e 色素沈着



頭部エックス線写真

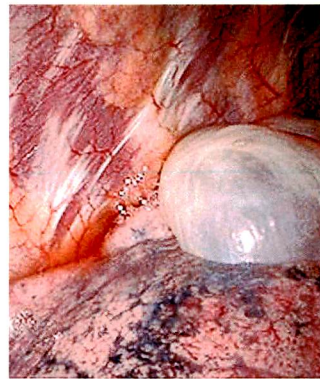


頭部造影MRI

36 45歳の女性。突然の右胸痛と呼吸困難を主訴に来院。胸腔鏡所見を示す。

本疾患の特徴として正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 胸痛で発症することが多い。
- b 若くて、細身の男性に多い。
- c 胸腔ドレナージのみでは治らない。
- d 癒着療法は治療の選択肢にならない。
- e 胸腔鏡下肺部分切除術が行われることが多い。



胸腔鏡所見

37 4歳の男児。肺体血流比が1.1の心室中隔欠損症で経過観察されていたが、根治手術を勧められたため、セカンドオピニオンを求めて来院した。

手術を受けなかった場合、どのような危険があるか説明する際、適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 三尖弁閉鎖不全症
- b 僧帽弁閉鎖不全症
- c 大動脈弁閉鎖不全症
- d Eisenmenger症候群
- e 感染性心内膜炎

38 51歳の男性。30歳代から慢性的な過量飲酒を認め、3年前から手指振戦が出現。ここ半年は会社も休みがちで、朝から飲酒することもあった。昨日から急に歩けなくなり、家族がなんとか立たせてもよろめいてしまった。また、家族が話しかけても、「うん、うん」と答えるのみで、会話が成立せず、ときに「あそこに人が来てる」、「助けてー、死んじゃうよー」などと興奮して叫ぶこともあった。そのため、心配した家族が本人を車でなんとか病院に連れてきた。診察時に眼球運動障害を認めた。

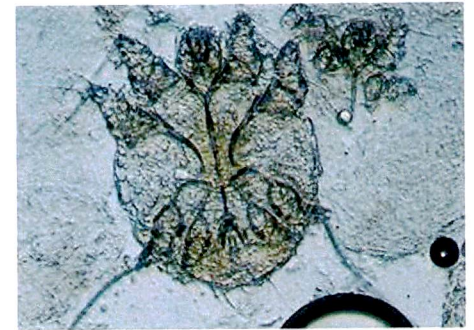
欠乏していると考えられるビタミンはどれか。

- a ビタミンB₁
- b ビタミンB₂
- c ビタミンB₃ (ナイアシン)
- d ビタミンB₆
- e ビタミンB₁₂

39 78歳の女性。全身の著しい痒みと皮疹が出現してきたため、来院した。体幹四肢に痒疹や丘疹が多発し、手掌では皺の方向に一致して鱗屑が線状に固着していた。この手掌からの苛性カリ〈KOH〉直接検鏡法にて、特徴的所見が得られた。KOH直接検鏡法の写真を示す。

この疾患に対する適切な治療はどれか。

- a ミコナゾールの内服
- b タクロリムスの塗布
- c シクロスポリンの内服
- d イベルメクチンの内服
- e 副腎皮質ステロイド薬の内服

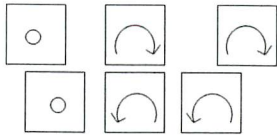


KOH直接検鏡法

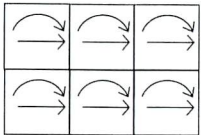
40 43歳の女性。1年前より3か月に1回程度の頻度で右耳閉塞感を自覚していた。3か月前にその症状に加えて30分程度持続する回転性めまいを認めた。昨日朝から右耳閉塞感を感じていたが、昼より聴力が低下し、午後4時頃回転性めまいを認めたため、本日外来を受診した。

本疾患で、予想される眼振所見はどれか。

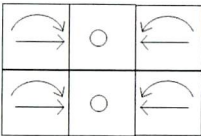
a 下図の眼振が認められ、眼振に潜伏時間、減衰を認める。



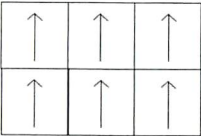
b 下図の眼振が数日続く。



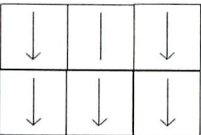
c 下図の眼振が認められ、2週間以上続く。



d 下図の眼振が認められ、2週間以上続く。



e 下図の眼振が認められ、2週間以上続く。



41 72歳の女性。血尿を主訴に来院した。3か月前から尿が赤いことに気が付いていたが痛みがないため放置していた。5年前に心筋梗塞の既往があり抗血小板薬を内服している。喫煙は20本/日を30年間続けていたが心筋梗塞時にやめている。飲酒はしていない。心臓の検査時に造影薬で気分不快、皮疹などのアレルギー症状あり。身長155 cm、体重43 kg。体温36.2℃。脈拍67/分、整。血圧132/88 mmHg。尿所見：蛋白2+、糖(-)、沈渣で赤血球多数/視野、白血球0~1/視野。来院時の膀胱鏡写真を示す。

次に行なう検査として正しいのはどれか。

- a 直腸診
- b 腎生検
- c 尿細菌培養検査
- d 腹部造影CT検査
- e 腹部単純MRI検査

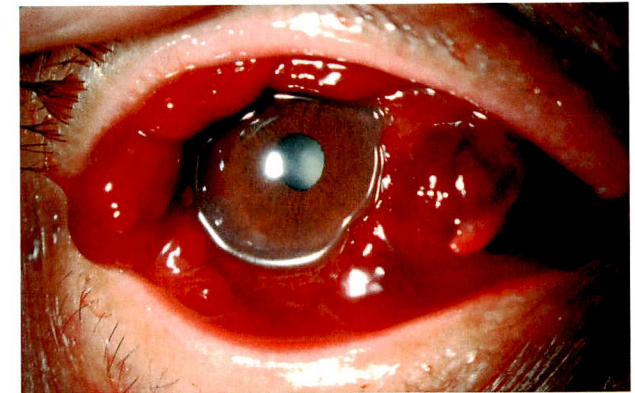


膀胱鏡写真

42 78歳の男性。右眼の異常を主訴に来院した。今朝起きたところ右眼が赤くなったことに気付いた。視力は、右1.0（矯正不能）左1.0（矯正不能）。前眼部を示す。

対応として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 圧迫眼帯
- c 電気焼灼
- d 止血薬内服
- e ビタミン薬点眼



前眼部

43 55歳の男性。ウイスキーをボトル半分以上/日、約35年間の飲酒歴あり。5年前から近医で肝障害の治療を受けていた。約1か月前から腹部膨満が出現。ここ1か月で10 kgの体重増加あり。手掌紅斑と前胸部にクモ状血管腫を認めた。

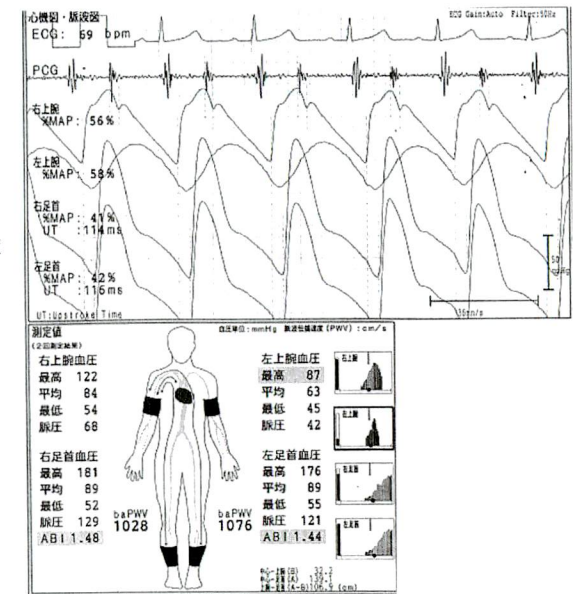
今後起こりうる病態はどれか。

- a ガンマグロブリン値の低下
- b 血清アンモニア値の低下
- c 血清総ビリルビン値の低下
- d 腹水中の好中球数 $250 \mu\text{l}$ 以上
- e 血清コリンエステラーゼ値の上昇

44 28歳の女性。左上肢のしびれと左眼の視力低下を主訴に来院した。橈骨動脈拍動に左右差を認めた。第3肋骨胸骨左縁（Erb領域）に拡張期雑音（Levine 2/6）および左上腹部に血管雑音を聴取した。足関節上腕血圧比検査（ABI）および腹部大動脈DSA（デジタルサブトラクション）血管造影を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 褐色細胞腫
- b 多発性硬化症
- c Behcet病
- d 大動脈炎症候群
- e 原発性アルドステロン症



足関節上腕血圧比検査（ABI）



腹部大動脈DSA（デジタルサブトラクション）血管造影

45 24歳の女性。2週前から夜テレビを見ていているとはやけて見えるようになり受診。同様のことは一過性に半年前にも経験したが、自然に改善した。接客業の仕事中はあまり感じない。顔面の写真を示す。

優先度の低い検査はどれか。

- a 胸部CT
- b 眼圧測定
- c 誘発筋電図
- d 抗Ach受容体抗体
- e エドロホニウムテスト

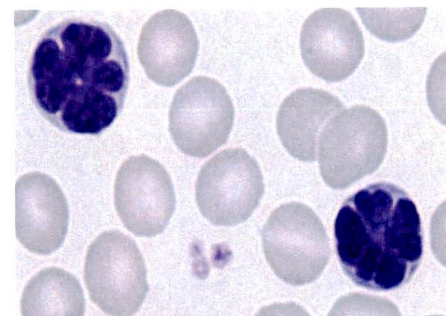


顔面の写真

46 68歳の女性。健康診断で白血球増多を指摘され精査のために来院した。発熱や体重変化は認められず、自覚症状は認められない。既往歴と家族歴とに特記すべきことはない。意識は清明。身長148 cm、体重45 kg。体温36.4℃、脈拍72 /分、整。血圧134/78 mmHg。表在リンパ節を触知しない。腹部は平坦で軟、右肋骨弓下に肝を1 cm触知する。脾を触知しない。血液所見：白血球14,500、赤血球470万、Hb 13.6 g/dl、Ht 42.5 %、血小板28.2万。生化学所見：総蛋白7.1 g/dl、アルブミン4.3 g/dl、尿素窒素19 mg/dl、クレアチニン0.65 mg/dl、AST 21 IU/l、ALT 17 IU/l、LDH 370 IU/l（基準176～353）。末梢血塗抹May-Giemsa染色標本を示す。

本疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 感染樹立後1年以内で発症する。
- b 高Ca血症を合併することが多い。
- c レトロウイルスのBリンパ球への感染が原因である。
- d 発症年齢は、若年と高齢者の二峰性のピークを認める。
- e 血清中の可溶性インターロイキン2レセプターが高値を示す。



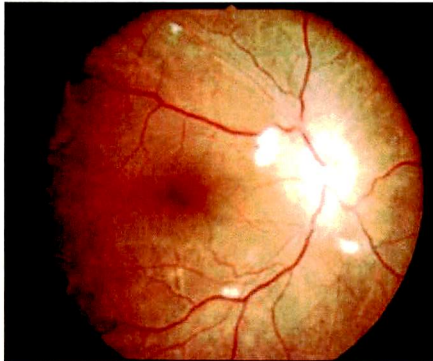
末梢血塗抹May-Giemsa染色標本

47 50歳の男性。昨夜就寝中に右足母趾基部の激しい疼痛、発赤、腫脹を自覚したため来院した。3か月前の健康診断では、尿糖（-）、尿蛋白（-）、尿潜血（-）、空腹時血糖値105 mg/dl、総コレステロール値208 mg/dl、尿素窒素17 mg/dl、尿酸9.5 mg/dlであった。

この患者にまず投与すべき薬剤はどれか。

- a コルヒチン
- b ステロイド
- c プロベネシド
- d アロプリノール
- e インドメタシン

- 48 48歳の男性。1年前の健診で高血圧、尿潜血、尿蛋白、血清クレアチニン値1.4 mg/dlを指摘されたが放置した。3か月前から下肢浮腫が出現し、2か月前からは頭痛も出現していた。本日、就床後に息苦しくなり救急外来を受診した。脈拍110/分、血圧240/138 mmHg、眼底所見、肺野にラ音を聴取する。両下肢の浮腫が著しい。眼底所見を示す。



眼底所見

- この患者で見られるのはどれか。2つ選べ。
- a 破碎赤血球
 - b 血清クレアチニン 5.2 mg/dl
 - c 血漿レニン活性 2.5 ng/ml・時（正常0.3～2.9）
 - d 血漿アルドステロン 230 pg/ml（正常36～240）
 - e ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド（HANP）40 pg/ml（正常43以下）
- 49 27歳の男性。旅行で5日間インドに滞在し、その後シンガポールで3日間過ごした。帰国して3日後に全身倦怠感を自覚し、39℃の発熱を認めた。また、その翌日には手指と下肢に小紅斑を認めたため、近医を受診した。血液検査では、白血球数3,000、Hb 14.5 g/dl、血小板数18.3万、AST 46 IU/l、ALT 64 IU/l、CRP 2.3 mg/dlであった。動物やその体液との接触はなく、インドではよく蚊に刺されたことを覚えている。

考えられないのはどれか。

- a マラリア
- b デング熱
- c マールブルグ病
- d チクングニア熱
- e ウエストナイル熱

- 50 14歳の男子。ハイキングの昼食に弁当を食べ、2時間くらいして水様性下痢と激しい吐き気と嘔吐が出現した。その後も症状が続くため来院した。経過中に発熱や血便は認めていない。多数の同級生が同様の症状を訴えていた。

この症例で原因菌として最も考えられるのはどれか。

- a サルモネラ
- b ウェルシュ菌
- c 腸炎ビブリオ
- d 黄色ブドウ球菌
- e カンピロバクター

- 51 28歳の女性。hMG-hCG療法による体外受精・胚移植施行後7日目に、著明な腹部膨満と腹痛とを主訴に来院した。身長160 cm、体重56 kg。体温36.6℃。脈拍88/分、整。血圧90/48 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部超音波検査で大量の腹水貯留と長径10 cmに達する両側卵巣腫瘍を認める。尿所見：蛋白（-）、糖（-）。尿量：10 ml/時。血液所見：赤血球590万、Hb 16.9 g/dl、Ht 55%、白血球13,000、血小板34万。血液生化学所見：総蛋白5.1 g/dl、アルブミン2.7 g/dl、尿素窒素23.0 mg/dl、クレアチニン1.3 mg/dl、Na 130 mEq/l、K 4.8 mEq/l、Cl 109 mEq/l。

対応として適切なのはどれか。

- a 輸血
- b 経過観察
- c 生理食塩水輸液
- d 昇圧薬投与
- e 高浸透圧利尿薬投与

- 52 41歳の男性。路上で意味不明なことを叫んでいる所を保護されて救急搬送された。現症：左前腕に多数の注射痕が認められた。著しい興奮状態で、瞳孔は散瞳し、体温39.2℃、脈拍140/分、血圧190/110 mmHgであった。

原因薬物として最も考えられるのはどれか。

- a 大麻
- b ヘロイン
- c コデイン
- d モルヒネ
- e メタンフェタミン

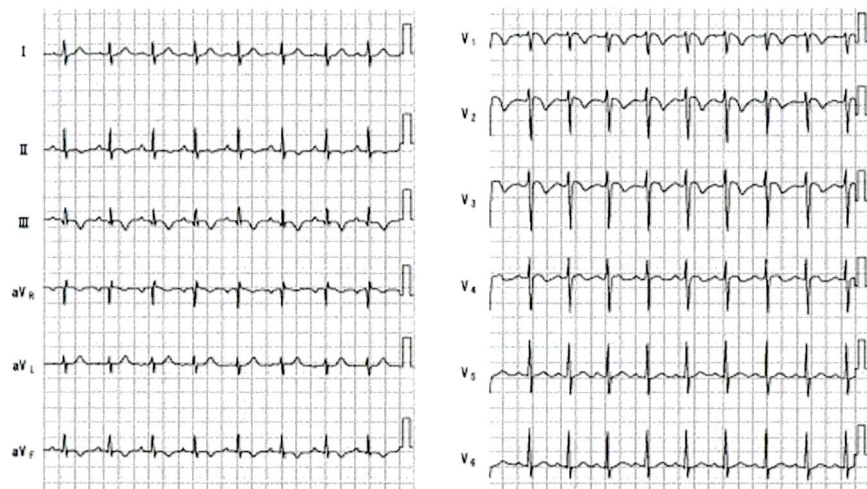
53 72歳の男性。

現病歴：2週前に整形外科にて大腿骨頸部骨折に対して人工骨頭置換術を行っている。術後患者がリハビリを拒否したため本日より立位リハビリを開始した。立位になると同時に激しい胸痛を訴え顔面蒼白となったため、直ちにベッド上安静とした。

既往歴：特記すべきことなし。

現 症：身長 168 cm、体重 70 kg。体温 36.5℃。呼吸音整。脈拍 140/分、整。血圧 80/40 mmHg。

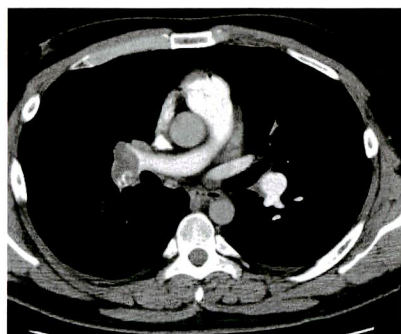
検査所見：心電図所見および胸部造影CT画像を示す。



心電図所見

この疾患に対する治療法としてふさわしくないものはどれか。

- a ヘパリン静注
- b 緊急開心術
- c PCPS（経皮的心肺補助装置）
- d 大動脈内ステント内挿術
- e カテーテルによる血栓吸引術



胸部造影CT

54 2歳10か月の男児。

現病歴

言葉をしゃべらないということで来院した。両側耳介、外耳道、鼓膜に異常はない。しかし、耳元で太鼓をたたいても反応はなかった。

身長、体重は年齢相応の発達。運動発達は年齢相応である。

既往歴

妊娠15週に母親がかぜ症状を来したがとくに治療は行わなかった。

分娩に異常無し。40週、生下時体重 2,980 g、Apgar Score 10点

母子手帳によると妊娠時、梅毒血清反応（-）、風疹抗体価（-）、HBウイルス抗体価+、CMV抗体価+であった。

家族歴に特記すべきことはない。

合併する可能性があるのはどれか。

- a 肝脾腫
- b のう胞腎
- c 内臓逆転症
- d 心房中隔欠損
- e 精神発達遅滞

55 19歳の男性。排尿時痛を主訴に来院した。

生来健康。2週前に性交歴あり。2日前より排尿時痛が出現したため来院した。

尿道より、漿液性排出物あり。

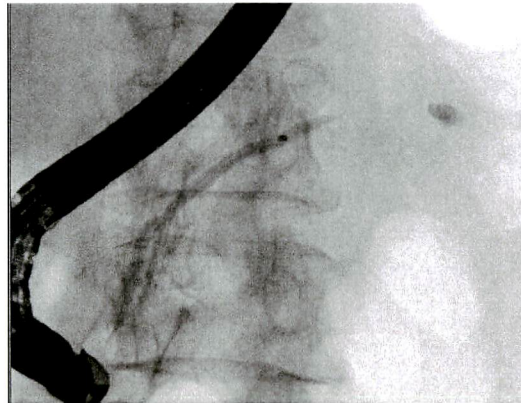
最も疑われる病原菌を選べ。

- a 淋菌
- b 緑膿菌
- c クラミジア
- d A群β溶連菌
- e 腔トリコモナス

56 72歳の男性。2か月前から背部痛と食欲低下が出現。近医を受診して腹部超音波検査で脾に異常を指摘され来院した。生活歴：タバコ20本/日50年間、飲酒 日本酒2合/日40年間。血液所見：赤血球445万、白血球3,600、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白6.0 g/dl、AST 32 IU/l、ALT 28 IU/l、総ビリルビン0.9 mg/dl、LDH 260 IU/l（基準119～229）、アミラーゼ110 IU/l（基準50～160）、UN 20 mg/dl、クレアチニン0.6 mg/dl。免疫学所見：CRP 0.3 mg/dl、CEA 3.0 ng/ml（基準5以下）、CA19-9 110 U/ml（基準37以下）。内視鏡的逆行性膵管造影写真を示す。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 膵管癌
- b 膵内分泌腫瘍
- c 自己免疫性膵炎
- d アルコール性慢性膵炎
- e 膵管内乳頭粘液性腫瘍



内視鏡的逆行性膵管造影写真

57 生後47日の乳児。新生児期から黄疸が続くため来院した。出生体重3,300 g、人工乳栄養、経過中に発熱はなく哺乳は良好であった。来院時体重4,200 g、肝臓を右肋骨弓下3 cm触知し、弾性軟、辺縁はやや鈍。脾臓は触知しなかった。赤血球480万、Hb 12.4 g/dl、総ビリルビン5.8 mg/dl（基準0.3～1.2）、直接ビリルビン4.6 mg/dl（基準0.4以下）、AST 244単位（基準40以下）、ALT 140単位（基準35以下）。

この乳児に最も欠乏しやすいのはどれか。

- a 葉酸
- b ビオチン
- c ビタミンB6
- d ビタミンC
- e ビタミンD

58 12歳の女兒。腹痛を主訴に来院。MRI像と会陰部の写真を示す。

最初に行う処置として適切なものはどれか。

- a 浣腸
- b 大腸鏡
- c 膀胱鏡
- d 処女膜切開
- e 子宮頸部円錐切除術



MRI像



会陰部

59 48歳の男性。工場内で作業点検のため室内に入ったとたんに刺激臭を感じ、眼痛、鼻痛、咳嗽、呼吸困難の状態になり直ちに室外に避難した。

原因のガスとして考えにくいのはどれか。2つ選べ。

- a 塩化水素
- b ホスゲン
- c アンモニア
- d 二酸化窒素
- e 二酸化硫黄

60 6歳の男児。2週前に発熱と咽頭痛を認め近医で治療を受けた。3日前から腹痛を認めた。1日前より下腿に2.5 mm大の皮疹を認めた。両側足関節の明らかな腫脹はないが疼痛を認めた。来院時発熱はない。尿検査：蛋白（-）、糖（-）、沈渣 赤血球 30～40/1 視野。便潜血反応 1+。血液所見：赤血球 380 万、白血球 9,000、血小板 35 万、プロトロンビン時間 11 秒（基準 10～14）、活性化部分トロンボプラスチン時間 30 秒（基準 32）。血清 ASO 460 単位（基準 250 以下）来院時に下腿に認めた皮疹を示す。

この疾患について誤っているのはどれか。

- a 血清IgA 高値
- b ステロイドの投与を行う。
- c 第13因子高値
- d 血清補体値正常
- e 腸重積を合併することがある。



皮疹